

患者様から「最も信頼され選ばれる病院」をめざします

摩周の風

2007 10月号 vol.1
摩周厚生病院
広報誌編集委員会

創刊によせて

院長 森 正光

JA北海道厚生連 摩周厚生病院が平成15年3月20日に新規開院してからもう早いもので4年半を過ぎようとしています。開院前、新しい職員が一堂に会し、新しい建物で病院のシステムをゼロから作り上げて、緊張の中で開院初日を迎えたことを今でも昨日のように脳裏に焼きついています。その後は、忙しい労務の中、人工透析開始、温泉リハビリ開始、介護病棟開設そして電子カルテの開始などと苦勞い出来事が連続しました。しかし、職員の協力と向上心によってこれらを乗り越えてきたことは大いに賞賛されることでもあります。

院外（社会）をみても、この5年間は医療、福祉にとって、変化の激しい期間であったと思います。連日、新聞などで報道される医療事故や医療不信。そして課題を残したままスタートした医師卒後研修制度は、一部病院への医師の集約化の結果、特に地方では病院に医師が居なくなるという危機的状況を生み、診療報酬制度の改定、引き下げは真面目に医療を行っている病院でさえ経営的危機に直面しています。

当院も多くの課題に直面し克服しながら、ここまで、成長をしてきました。これから更に飛躍していく意思で、このたび、広報誌「摩周の風」を発刊することになりました。この「摩周の風」は、単に当院の紹介にとどまらず、地域住民の方々に当院のめざしている医療を感じ取り、理解していただくためにも非常に役立つものと考えます。地域住民と病院との相互理解と協力があるからこそ、その病院は地域に根ざしていると言われ、地域にあって光り輝く存在となるでしょう。「摩周の風」は地域と病院をつなぐ重要な役割を果たすよう期待されています。

この「摩周の風」が病院の成長とともに長い歴史を刻んで発展を続け、地域住民の医療と福祉の一助となることを願って止みません。

部門紹介 人工透析室

病院2階 西側 美羅尾山が良く見える一角にあります。

病院開設以来、5台の機械とベッドで透析治療を行ってきましたが、透析患者様の増加に伴い、もう1台増設の予定となっております。（弟子屈町の補助の予定）これによりリミット15名のところ、18名まで収容可能となりました。

スタッフは岡野副院長を筆頭に看護師4名（輪番）、臨床工学技士1名で患者様が快適に、安心して透析治療を受けていただけるよう日々努力しています。（H）



川湯ばやしの軽快なリズムが

8月7日北海道ではこの日が七夕です。2階デイルームで地元につながる伝統の川湯ばやし（和太鼓）の披露がありました。子供たちが大人の奏でる笛や鈴の音に合わせて一生懸命太鼓を叩き、その様子を入院中の患者様や家族の方が嬉しそうに見ている姿はとても和やかでした。

特に、患者様の中には普段みられないような笑顔が見れたり、手拍子をしている方もいました。この他にも東病棟では、様々な行事に取り組んでいるので次回も・・・



敬老会開催される

9月20日の午後2時から 2階デイルームで、敬老会が開催されました。最初の30分は 桜 裕二さんと主宰するかラオケ教室の生徒さん2名による歌の披露がありました。そのあと、クイズ大会があり、おやつとして栄養科から「ひよこのおかし」がふるまわれ、患者様、ご家族の皆様とたのしいひとときをすごしました。



お知らせ

10月1日より 内科の午後診療が月曜日から金曜日で再開しています。各曜日の担当は次のとおりです。

月曜日	佐々木
火曜日	担当医
水曜日	佐々木
木曜日	原 田
金曜日	森

受付時間
午後2時から午後4時までになります。

編集後記

摩周厚生病院広報誌を発刊することになりました。病院と、受診されている患者様とで、情報のキャッチボールができるようになっていいなと思っています。よろしく願いいたします。(H.T)